

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
4	2	1	環境保全費	252

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	環境保全推進
事業目的	犬山市の公共施設の適正な環境管理を推進することで、市街地及び近郊に潤いと憩いを感じる快適な生活空間を保全・創出する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の適正な環境管理を推進 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○環境保全事務 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市アメニティ協会事務所施設修繕料等 ・浄化槽保守委託料 ○犬山市アメニティ協会負担金 <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市アメニティ協会の事務局分の人件費負担分
事業の成果・効果	犬山市アメニティ協会は、高齢者の活力を活かし、公益事業の推進に寄与する団体として道路や公園など公共施設の清掃管理業務等を担っている。高齢者の雇用や生きがいがいづくりにも寄与するとともに、安価な運営コストにより、適正かつ効率的に公共施設を管理することができる。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

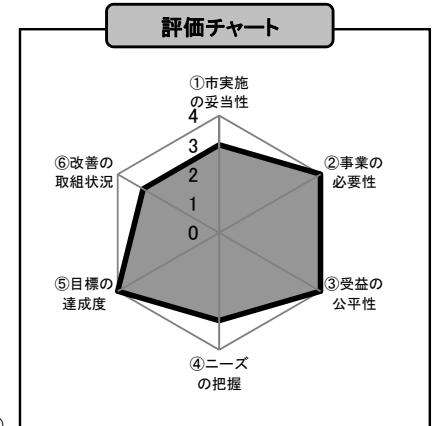
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
環境保全事務	57	0	57	100%	4	3	4
犬山市アメニティ協会負担金	2,910	0	2,910	100%	3	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,967	0	2,967	100%	3	3	4

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		2,946	2,967	3,293
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	311
	一般財源	2,946	2,967	2,982
一般財源の割合	100%	100%	91%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	道路清掃、公園清掃など市民生活に不可欠な公共施設の管理を実施するものであり、高齢者の活力を活かして、安価なコストにより事業を展開している。
②事業の必要性	4	市民が生活する上で不可欠な道路や公園等の管理等について、高齢者の活力を活かして、安価に事業を実施しており、継続が必要である。
③受益の公平性	4	道路清掃、公園清掃、剪定業務等により、公共施設を利用する多数の市民が恩恵を受けている。
④ニーズの把握	3	土木要望等により市民ニーズを把握しており、また、市民意識調査の中で、道路の安全性や快適性、公共施設の利便性などについて調査を行っている。
⑤目標の達成度	4	予定どおり、適正に公共施設の維持管理を実施した。
⑥改善の取組状況	3	犬山市アメニティ協会の法人化に伴い、事業内容の点検を進め、より適正に事業運営ができるよう改善に努めた。今後も継続的に点検を進め、事業の改善、適正化の推進に努めていく。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	犬山市アメニティ協会の法人化に伴い、負担金のあり方や委託業務内容、単価等について精査を行い、より適正に運営ができるよう改善を行った。
令和元年度に見直しを実施している事項	事務所の有償による貸与や補助金の創設などを行い、より適正かつ公正な事業運営ができるように努める。
今後見直しを検討する事項	委託単価について検証を行い、適正な事業運営が推進できるよう事業を精査していく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
犬山市アメニティ協会の職員の高齢化が進む中で、今後も継続して安価に委託業務が継続できるよう、体制強化を推進する。	公共施設の管理業務が、今後も継続して安価に実施できるよう、犬山市アメニティ協会との連携を強化しつつ、委託内容等を常に精査するとともに運営体制の強化に努める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	270

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設の維持管理及び耐震対策
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 耕作に必要な水を確保し、農地を洪水や湛水から守っていく。 ○土地改良施設維持管理適正化事業負担金 ・事業に必要な一定額を愛知県土地改良事業団体連合会に5年間積立を行い、事業実施年度に補助金を加算し交付される制度を活用し、大規模な維持工事を実施「亀割大池浚渫」「新郷瀬川スライドゲート自動化」 ○愛知県が行う防災ダム事業等への一部負担 ・耐震調査が行われたため池のうち対策必要と判定された池について、堤体等の耐震補強工事を行う。 北洞池・上峠ノ池（H27～H30年度） 常福寺洞池・下蓮池・大黒上池・大黒下池（H28～30年度） 割洞第一池・雑木池・田洞池・奥下屋下池（H29～33年度） 落洞池・ニツ沢池（H30～H32年度） ○土地改良施設改修工事 単独土地改良事業 桑田勝部前地区、今井四ツ家地区、田洞池地区 緊急農地防災事業 清水寺洞池地区 前原橋爪山用排水路改修
事業の成果・効果	土地改良施設の改修及び耐震対策を行った

II：個別事業内訳

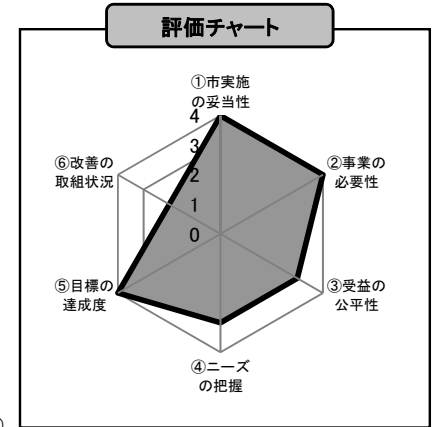
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
土地改良（排水）事務	1,122	0	1,122	100%	2	3	3
土地改良施設改修	68,123	29,980	38,143	56%	2	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	69,245	29,980	39,265	57%	2	3	3

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		63,882	69,245	139,175
財源内訳	国県支出金	7,890	24,480	42,398
	地方債	0	5,500	9,900
	その他	500	0	24,300
	一般財源	55,492	39,265	62,577
一般財源の割合	87%	57%	45%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市が管理する法定外公共物である
②事業の必要性	4	土地改良施設を適正管理することにより、洪水抑制機能等の多面的効果が発揮され、市民の生活向上に寄与しており、事業実施の必要性が高い
③受益の公平性	3	用排水路やため池は、農業用のみならず地域排水路や洪水調整機能を有しており、その効果は広範囲に及ぶ
④ニーズの把握	3	受益者が申請人となっており、同意書をもって県事業として採択している
⑤目標の達成度	4	当初の予定どおり達成できた
⑥改善の取組状況	2	ため池の規模、被害想定の大きさ等により優先順位をつけて事業の平準化を行っている

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	補助金の交付率に併せて事業の調整を行った
令和元年度に見直しを実施している事項	防災重点ため池の再選定により、優先順位の再検討を行う
今後見直しを検討する事項	県と事業調整を行い、計画的な整備を推進していく

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ほ場整備が完了して20年以上経過し、施設の老朽化や土砂の堆積が多くなり維持管理費が増加している。また、今後さらに老朽化が進むため、施設の長寿命化のため農業従事者との連携・協働が必要である	地元要望に対し、事業の適正な選択が必要であるため、十分な現地調査と土木常設員のヒアリングなどにより公平な事業を実施する。また、県と連携し、防災ダム事業等を推進し、ため池の耐震性能向上を図る

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	2	道路新設改良費	294

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	一般市道新設改良
事業目的	道路の新設、改良等の地元要望に基づき身近な幹線道路及び生活道路の整備を行うことにより、生活環境の充実を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・地元要望に沿った事業展開の実施 平成28年度～平成30年度 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○市道今井41号線道路整備（地元要望） 測量・道路詳細設計 道路改良工事 L=130m W=5m ○市道犬山地区79号線外道路整備（暫定用途区域解除に伴う） 測量・排水路検討業務 ○市道羽黒西58号線道路整備（地元要望） 道路改良工事 延長71m 幅員4.0m
事業の成果・効果	地元要望に基づき、身近な幹線道路及び生活道路の整備を推進した。市道今井41号線、市道羽黒西58号線の道路改良工事を進め、市道羽黒前原台線、市道犬山地区79号線外の道路詳細設計及び排水検討業務を進め、地域の生活環境の改善を図った。

II：個別事業内訳

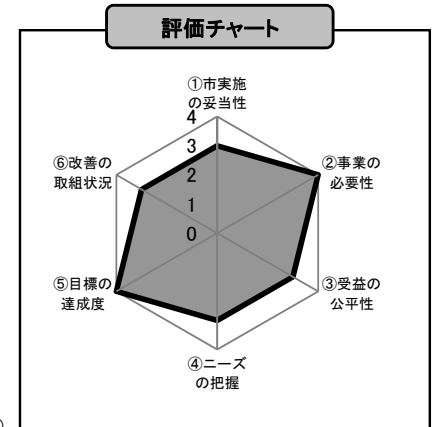
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
市道今井41号線道路整備	11,864	0	11,864	100%	3	3	3
市道犬山地区79号線外道路整備	4,320	0	4,320	100%	3	3	3
市道羽黒西58号線道路整備	21,707	0	21,707	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	37,891	0	37,891	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		21,681	37,891	99,085
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	24,889
	一般財源	21,681	37,891	74,196
一般財源の割合	100%	100%	75%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	道路管理者として、地域の強い要望に基づき、生活環境の改善や交通安全の確保を行うための道路整備を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時などの緊急車両等の通行の確保など、地域からの要望に応える事業として道路整備を推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活道路として、地域住民の要望に基づく事業であるが、不特定多数の住民が利用するため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	土木常設員を通じて地域の要望に基づいて、事業を推進している。また、市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性についてアンケートを実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	4	土木常設員を通じて地域の要望に基づいて、事業を推進している。また、市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性についてアンケートを実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑥改善の取組状況	3	地域からの要望を精査し、市民の生活環境の改善に資する事業効果の高い路線を選定し、地域と密接に連携して、コストの縮減に努めた。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	地元調整を密に図り、工事区間等事業効果の高い工事を実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	地域との調整を緊密に図り、引き続きより事業効果の高い路線の道路改良工事を推進していく。
今後見直しを検討する事項	早期に事業調整を行い、より事業性や効果が高い路線の絞り込みを行い、計画的に整備を推進していく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地域からの要望が多様化しており、地域との調整に加え、地権者や隣接者の意識が変化してきている中で、交渉等の難易度が上がっている。	地元要望に基づき、道路改良事業を推進していくため、事業実施にあたり、事前の事業調整を行い、地権者等と円滑に調整を図るなどにより実施事業の絞り込みを行い、より事業効果の高い事業の推進を図っていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	2	道路新設改良費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	他事業関連道路整備
事業目的	尾張広域緑道等の他事業関連に基づき、生活道路及び橋梁の整備を行なうことにより、生活環境の充実を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・尾張広域緑道関連 平成24年度～平成30年度 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○尾張広域緑道関連整備（幅員4.0m） 尾張広域緑道関連工事
事業の成果・効果	尾張広域緑道関連整備工事については、愛知県の整備にあわせ、市管理道路部の道路改良工事を実施した

II：個別事業内訳

(単位：千円)

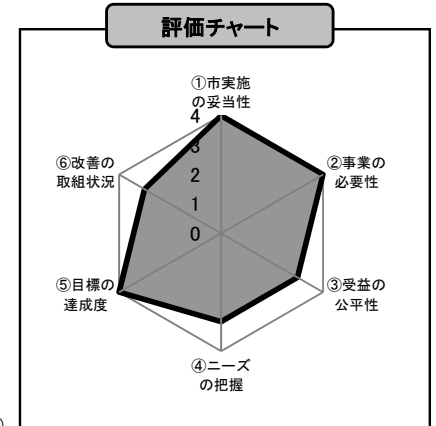
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
尾張広域緑道関連整備	4,012	0	4,012	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4,012	0	4,012	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	国県支出金	0	0
地方債	0	0	-
その他	0	0	-
一般財源	1,728	4,012	-
一般財源の割合	100%	100%	-



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	各事業の整備に関連して道路整備を実施するものであり、市が実施主体として実施するものである。
②事業の必要性	4	各事業にあわせて、アクセス道路等の整備を実施するものであり、必要性は高い事業である。
③受益の公平性	3	地元と調整を図り事業推進をしている事業であり、多数の市民のニーズに応える事業である。
④ニーズの把握	3	地元と調整を図り事業推進をしている事業であり、多数の市民のニーズに応える事業である。
⑤目標の達成度	4	当初計画どおり、事業を実施した。
⑥改善の取組状況	3	予定どおり事業が進んでいる。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	工事の進捗に留意し、工事管理を適正に行うよう努めた。
令和元年度に見直しを実施している事項	平成30年度をもって事業完了
今後見直しを検討する事項	平成30年度をもって事業完了

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
平成30年度をもって事業完了	平成30年度をもって事業完了

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	2	道路新設改良費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	歩道整備
事業目的	五条川沿いに歩道のネットワークを形成することにより、歩くことを通じた健康維持などの市民の歩くニーズに応えると共に、魅力ある地域づくりを図るため生活者がゆとりとうおいの実感できる歩行者空間を形成する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・歩道整備事業（ウォーキングトレイル事業） 歩道整備総延長2,960m （新郷瀬川と五条川の分岐地点から大町町との市境までを結ぶ五条川沿いの区間） 平成20年度～平成28年度（社会資本整備総合交付金） ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・歩道整備工事 市道羽黒東435号線外 L=132m W=2～4m ・歩道整備 用地購入 ・測量登記業務
事業の成果・効果	大町町の境より高根洞工業団地までの区間で整備が完了した

II：個別事業内訳

(単位：千円)

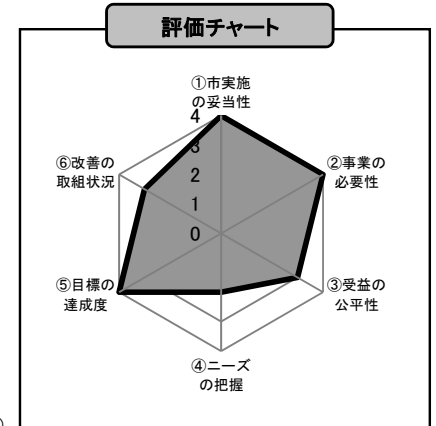
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
五条川歩道整備(ウォーキングトレイル)	10,366	8,000	2,366	23%	4	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	10,366	8,000	2,366	23%	4	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	国県支出金	-	10,366
地方債	-	8,000	-
その他	-	0	-
一般財源	-	2,366	-
一般財源の割合	-	23%	-



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路管理者として市民の健康増進のため快適で潤いのあるウォーキング空間を整備する必要がある
②事業の必要性	4	健康づくりのためのウォーキング需要が増しており、快適で潤いのあるウォーキング空間を整備する必要がある
③受益の公平性	3	地域のウォーキングルートとしてだけでなく不特定多数の市民が利用するため公共性は高い
④ニーズの把握	2	市民アンケート調査などで、ニーズを把握しており地域の住環境が工場したことを把握している
⑤目標の達成度	4	当初計画どおり、事業を実施した
⑥改善の取組状況	3	予定どおり事業が進んでいる

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	工事の進捗に留意し、工事管理を適正に行うよう努めた。
令和元年度に見直しを実施している事項	平成30年度をもって事業区間が完了
今後見直しを検討する事項	平成30年度をもって事業区間が完了

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
高根洞工業団地から新郷瀬川までの区間は、県道の改修に併せて歩行者導線を検討調整する	高根洞工業団地から新郷瀬川までの区間は、県道の改修に併せて歩行者導線を検討調整する

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	3	橋梁維持費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	橋梁維持
事業目的	平成24年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、損傷度、重要度の観点から優先度が高いと判定された橋梁から補修工事を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・道路安全性を確保する上で、計画的かつ予防的な対応に転換するため、橋梁を対象とした長寿命化計画を策定し、それに基づき点検及び長寿命化工事を実施する。 平成26年度～令和3年度（防災・安全交付金） ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○橋梁長寿命化 <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁長寿命化修繕設計委託（観音橋）、橋梁長寿命化修繕工事（三日月橋） ・橋梁長寿命化点検業務委託 橋梁点検 18橋 ・橋梁長寿命化修繕計画策定・橋梁台帳システム構築業務委託
事業の成果・効果	平成25年度に道路法が改正されたことに伴い、平成26年度から橋長2m以上の全ての橋梁（316橋）を5年に1回近接目視による定期点検を行うことが義務付けられており、平成30年度は18橋の点検及び長寿命化修繕計画の策定を行った。また、三日月橋の修繕工事を実施した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

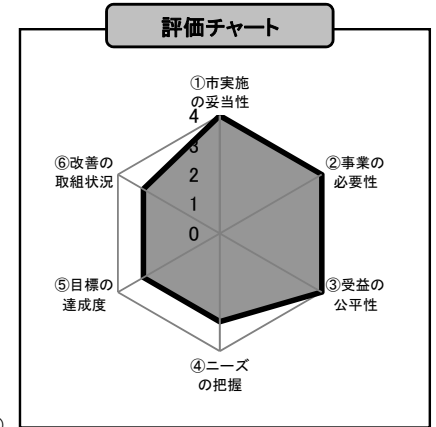
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
橋梁長寿命化	79,692	52,850	26,842	34%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	79,692	52,850	26,842	34%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		100,327	79,692	101,082
財源内訳	国庫支出金	30,811	29,050	42,467
	地方債	38,500	23,800	31,100
	その他	0	0	0
	一般財源	31,016	26,842	27,515
一般財源の割合		31%	34%	27%



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法に基づき、道路管理者が管理する橋長2m以上の市道橋梁について5年に1度近接目視による定期点検を行わなければならない
②事業の必要性	4	道路法に基づき、橋長2m以上の全ての橋梁について5年に1度近接目視による点検を行わなければならない事業であり、市民の安全・安心を守るため、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	4	橋長2m以上の全ての橋梁について点検を行い、修繕を実施する事業であり、市民全般の安全・安心を守り、不特定多数の市民にサービスを提供する事業である。
④ニーズの把握	3	地域との調整を図りながら、橋梁長寿命化計画に基づき、修繕を進めている。
⑤目標の達成度	3	平成26年度から計画的に点検を進めており、適正に修繕を進めている。
⑥改善の取組状況	3	道路法に基づく定期点検を計画どおり進めており、損傷度、重要度などの観点から適正に修繕を進めている。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	道路法の改正に伴い、定期的な近接目視による点検を計画的に実施するとともに、予防の観点から橋梁の長寿命化工事を推進している。
令和元年度に見直しを実施している事項	橋梁長寿命化計画に基づき、適正に点検、長寿命化工事を推進していく。
今後見直しを検討する事項	市民の安全・安心を守るため、計画的かつ予防的視点で積極的に橋梁の長寿命化工事を推進する。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
橋長2m以上の全ての橋梁について5年に1回の近接目視を実施していく必要があり、継続していかなければならない。損傷度の高い橋梁について、優先して修繕をしていかなければならない。	平成30年度までに全橋梁316橋について点検を実施し、平成31年度からは2巡目に入るが、適正に修繕を進めていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	4	橋梁新設改良費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	橋梁新設改良
事業目的	生活道路に使われている狭隘な市道橋を県が実施する河川改修事業に併せて安全で利便性の高い市道橋に改築を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・新郷瀬川改修に伴う市道橋の橋梁新設改良事業の実施 平成23年度～令和2年度（社会資本整備総合交付金） ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○新郷瀬川改修関連橋梁整備 橋梁改築負担金 <ul style="list-style-type: none"> ・合戦橋一号橋（市道羽黒東35号線） L=36.1m W=3.0m (H26～R1) 下部工・既設橋撤去 ・海道橋（市道前原14号線）L=43.0m W=6.5m (H23～R2) 下部工・既設橋撤去・右岸護岸工・右岸水路工等
事業の成果・効果	県が実施する新郷瀬川の改修工事にあわせて、市道橋の改修を行う事業であり、平成30年度は海道橋及び合戦橋一号橋の改修工事を実施した。

II：個別事業内訳

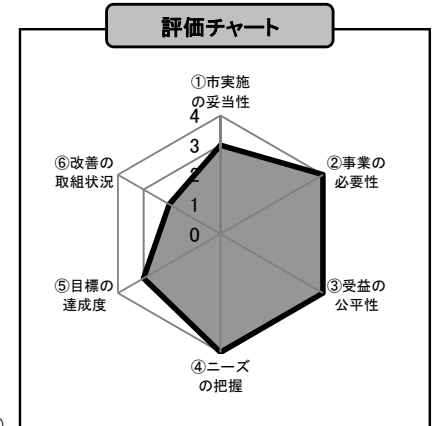
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳			一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源	情報発信		利便性向上	他市比較	
新郷瀬川改修関連橋梁整備	81,381	76,691	4,690	6%	2	2	2	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	81,381	76,691	4,690	6%	2	2	2	

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	135,616	81,381	297,089
財源内訳			
国県支出金	54,064	36,491	65,021
地方債	42,500	40,200	152,100
その他	0	0	55,900
一般財源	39,052	4,690	24,068
一般財源の割合	29%	6%	8%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	生活道路に接続する市道橋を県の河川改修工事にあわせて、安全で利便性が高い市道橋に改修する事業であり、市が実施主体として実施しなければならない事業である。
②事業の必要性	4	生活道路として利用されている狭隘な市道橋を県が実施する河川改修工事にあわせて安全で利便性の高い市道橋に改築する事業であり、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	4	生活道路としての市道橋改修であり、利用者は地域住民が多いものの特定多数の市民が利用する公益性の高い事業である。
④ニーズの把握	4	県の河川改修工事にあわせて、市道橋の改修を実施しており、生活道路としての利便性の向上に資する事業であり、地域住民と調整を図り、事業推進をしている。
⑤目標の達成度	3	平成22年度から計画的に整備を進めており、若干の遅れが生じているが、概ね計画に沿って整備が進められている。
⑥改善の取組状況	2	県及び地元と連携して、計画に沿って、適正に事業を進めている。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	平成30年度は海道橋及び合戦橋一号橋の改築を計画的に実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	県と密に連携をしながら、県の河川改修事業にあわせて、市道橋の改築を効率的に実施していく。 令和元年度は合戦橋一号橋が完了予定である。
今後見直しを検討する事項	県と連携して、計画的かつ合理的に市道橋の改築を進めていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
平成22年度から平成32年度までの事業計画で進めているが、当初スケジュールに対して若干の遅れが生じている。	合戦橋一号橋、海道橋に着手したので引き続き計画的に進め、早期に富士橋の整備ができるよう、県と連携を図り、計画的に事業を推進していく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	1	河川総務費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	河川改良維持
事業目的	河川関係団体等との連携、情報共有を図り、河川改良・維持事業を推進する。 未登記用地の整理等を推進する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・河川総務事務 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○河川総務事務 ・河川関係団体等幹事会、総会及び負担金 ・境界標設置等（常福寺裏川地内）
事業の成果・効果	各協議会の幹事会、総会に出席、協議会として国、県に陳情した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

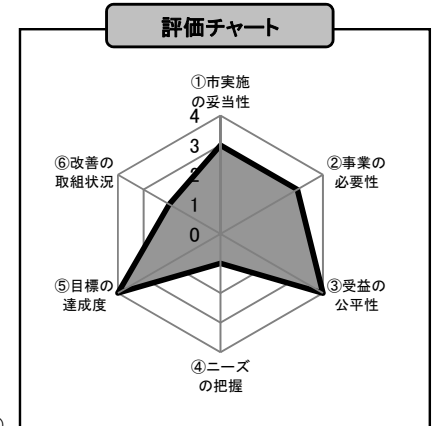
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
河川総務事務	290	0	290	100%	1	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	290	0	290	100%	1	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	国県支出金	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	782	290	393
一般財源の割合	100%	100%	100%



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
②事業の必要性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
③受益の公平性	4	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図られることにより安心安全のまちづくりに寄与する。
④ニーズの把握	1	市民ニーズは把握していない。
⑤目標の達成度	4	国、県への要望を行った。
⑥改善の取組状況	2	見直しを行なうにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	運営、事業等の精査、見直しを進めている。
令和元年度に見直しを実施している事項	見直しを行なうにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。
今後見直しを検討する事項	見直しを行なうにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
見直しを行なうにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。	必要に応じ、関係市町村及び関係機関と連携、調整をしつつ、見直しを進めていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	298

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	河川改良維持
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され平成18年に一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ゲリラ豪雨等による道路冠水や土砂災害などの被害の軽減を図る施策を実施していく。 ●主な事業内容 ○都市浸水被害対策 【五郎丸地区】(H30) 五郎丸地区の浸水被害軽減のため、H30年に排水路改修工事を行う。 【内田西排水区】 名鉄犬山ホテル建替に併せた雨水排水路基本設計を行う。 【木津地区】 木津白根地区の浸水被害軽減のため、R1に繰越し排水路改修工事を行う。 ○排水対策事業 【細洞沢】(H30～) 愛知県が実施する砂防事業に関連して、流末水路の整備を行う。 R3年度～R4年度 用地買収 (市施工) R5年度 工事 (市施工) ※H30年度に県施行箇所を公共補償で用地買収 【虎熊沢】 H30年度 用地買収 (公共補償及び市単独) R4年度以降 工事
事業の成果・効果	五郎丸地区において、雨水排水路新設工事を実施した。今後は経過観察を行いながら、整備効果を検証する。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

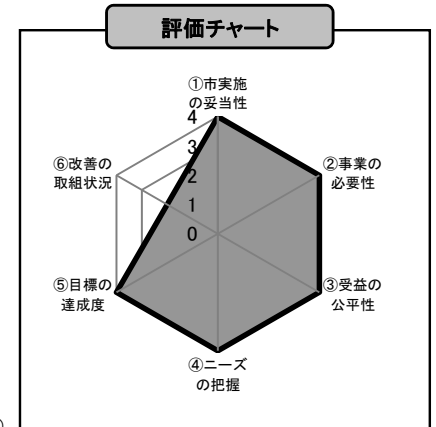
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
都市浸水被害対策	22,358	0	22,358	100%	2	3	3
排水対策事業	2,066	2,066	0	0%	2	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	24,424	2,066	22,358	92%	2	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		11,614	24,424	30,776
財源内訳	国庫支出金	0	2,066	1,319
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	11,614	22,358	29,457
一般財源の割合	100%	92%	96%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	総合治水対策による事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水被害対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	2	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択する。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	五郎丸暫定用途解除地区において、公共下水道(雨水)事業での事業化について県と調整した
令和元年度に見直しを実施している事項	さらに具体的に公共下水道(雨水)事業との調整を行う。
今後見直しを検討する事項	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択する。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
近年、短時間に多量の雨が降るゲリラ豪雨が頻発し、内水対策の重要性は高まっている。雨水排水施設の整備には、多額の費用が必要であるため、活用できる補助金の選定や、経費削減の工夫が課題となっている。	公共下水道(雨水)事業との調整を行う。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	2	都市建設総務費	304

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	都市建設管理
事業目的	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命を保護するため、急傾斜地の崩壊防止のために必要な措置を講じる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 市内の急傾斜地崩壊危険区域において県が施工する急傾斜地崩壊対策事業の事業費の一部を受益者である市が負担する。 (H30年度：池野地区、富岡地区) ●主な内容 ○都市建設総務事務 旅費 消耗品費 土木積算システム電話代 測量登記委託（公共囀託） 土木積算システム単価配信負担金 五市二町用地税務連絡協議会負担金 一宮建設事務所管内事業協議会負担金 愛知県治水砂防協会負担金 ○急傾斜地崩壊対策 急傾斜地崩壊対策事業負担金
事業の成果・効果	片洞地区（富岡地内）及び御殿屋敷地区（池野地内）において、対策工事を実施した。急傾斜地崩壊対策工事を実施することにより、土砂災害から市民を守ること、市民の安全・安心な生活が図られる事業であり、県事業（負担割合10%）として実施しており、事業効果は高い。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

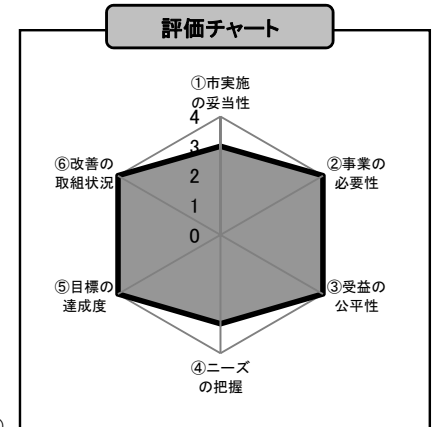
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
都市建設総務事務	4,515	0	4,515	100%	4	4	4
急傾斜地崩壊対策	5,432	0	5,432	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,947	0	9,947	100%	4	4	4

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		9,168	9,947	13,679
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2	0	0
	一般財源	9,166	9,947	13,679
一般財源の割合	100%	100%	100%	



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	原則は地権者が対策を講ずべきであるが、市民の生命を守る視点から、県及び市が連携して事業を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る、非常に重要度の高い事業である。
③受益の公平性	4	急傾斜地崩壊対策工事によるハード対策とともに、防災マップなどを活用して土砂災害警戒区域を広く市民に周知することで、多くの市民の安全と安心を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	土砂災害防止法に基づく危険箇所等について、地元からの要望等を踏まえつつ、対策工事を実施している。
⑤目標の達成度	4	地元及び県と調整を図った上で、県事業として計画的に事業を実施している。
⑥改善の取組状況	4	県及び地権者等関係者と調整を図り、県事業として、効率的かつ適正な手法でハード整備を推進するとともに、ホームページを活用し、警戒区域及び特別警戒区域などの啓発を進め、ハード・ソフト両面から効果的に事業を推進していく。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC-A）

平成30年度に見直しを実施した事項	土砂災害応急復旧対策費補助金について、広報、ホームページ等を活用し、市民周知を促進した。
令和元年度に見直しを実施している事項	市民の安心・安全を守るため片洞地区及び御殿屋敷での対策工事を継続的に進めるとともに、県と連携を強化し、より積極的に事業を展開できるように努める。
今後見直しを検討する事項	県との連携を強化し、対策工事のさらなる推進を図るとともに、啓発事業についてもより積極的に取り組みを進める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る重要事業であるが、対策工事の規模が大きくなり、対策が必要な箇所の整備に時間を要する。	県に対して、対策工事の実施に向けた要望を積極的に行うとともに、土砂災害に関する防災訓練、土砂災害応急復旧対策費補助金の周知などインターネット等を活用し、市民周知の促進を図るソフト対策をあわせて推進していく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	4	街路事業費	308

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	都市計画道路
事業目的	犬山市の市街地への通過交通の流入軽減対策及び市街地間の連絡のため、市街地内環状線や地域交通軸などの幹線道路を整備する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・富岡荒井線道路整備 平成19年度～令和2年度（市町村土木補助金） ・犬山富士線道路整備 平成26年度～平成29年度（社会資本整備総合交付金） ・楽田桃花台線道路整備 平成30年度～ ●主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ○都市計画道路管理 維持管理（除草）、都市計画道路維持補修工事 ○富岡荒井線道路整備 道路改良工事（野田地区）延長50m 幅員12m 道路改良工事（番前地区）延長130m 幅員12～16.5m 測量登記、物件調査委託等 ○犬山富士線道路整備 道路改良工事 延長160m 幅員7m ○楽田桃花台線道路整備 用地測量
事業の成果・効果	市街地への通過交通の流入軽減及び地域の交通軸となる幹線道路を推進するため、富岡荒井線及び犬山富士線の道路改良工事を実施した。楽田桃花台線については、用地測量を実施した。 なお、犬山富士線についてはH30年度をもって事業完了した。

II：個別事業内訳

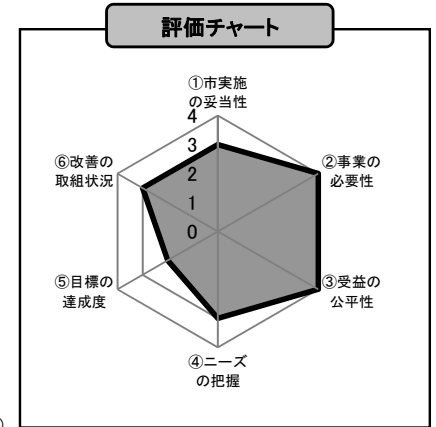
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
都市計画道路管理	2,521	326	2,195	87%	3	3	3
富岡荒井線道路整備	62,309	46,060	16,249	26%	3	3	3
犬山富士線道路整備	19,455	15,800	3,655	19%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	84,285	62,186	22,099	26%	3	3	3

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		122,148	84,285	178,045
財源内訳	国庫支出金	30,100	12,460	11,000
	地方債	55,000	49,400	66,900
	その他	8	326	327
	一般財源	37,040	22,099	99,818
一般財源の割合	30%	26%	56%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	都市計画道路整備事業として、市が主体となって実施し推進すべき事業である。
②事業の必要性	4	交通渋滞の緩和及び地域の発展に資する重要事業であり、早急に整備推進することが必要な事業である。
③受益の公平性	4	幹線道路の整備は不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性について調査を実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	2	改良工事については、計画的に推進しているが、富岡荒井線の用地取得が難航している状況である。
⑥改善の取組状況	3	道路改良工事について、効率的に工事が進められるように努めており、用地買収についても問題点の整理に努め、手法検討を進めている。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	境界確定ができず難航していた富岡荒井線番前地区内の事業用地について、法務局と調整を重ね残地求積手法による分筆所有権登記を行い、2件の買収が完了した。
令和元年度に見直しを実施している事項	野田地区、番前地区内の用地買収を進め、早期に事業効果を高められるよう、整備促進を図る。
今後見直しを検討する事項	難航している用地買収について、手法等の検討をさらに進め、早期に用地取得、整備促進が図られるよう努める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
富岡荒井線の野田地区の区間については整備が進んでおらず、また一部幅員が狭く、車両のすれ違いが困難な状況であるため、早期に用地買収を行い、整備を進める必要がある。	用地買収に向けた手法の検討をさらに進め、野田地区内の用地買収を進めるとともに、番前地区以南の区域についても買収を進め、整備の推進を図る。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	5	土地区画整理費	308

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	地区計画道路整備
事業目的	道路等の都市基盤施設が未整備である地区計画決定した地区について、この計画に基づき順次地区施設の整備を進め、民間開発を促すとともに低未利用地を活用し、良好な住宅地を形成する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間 平成24年度～ ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○橋爪・五郎丸、丸山地区計画道路整備測量調査（中心線測量外） 用地購入（橋爪・五郎丸地区セットバック分外）
事業の成果・効果	地区計画決定をした地区について、順次道路等の都市基盤整備を進め、良好な住宅地の形成を目指す事業であり、計画に基づき橋爪・五郎丸地区の用地購入（四郎丸地内）を進めた。

II：個別事業内訳

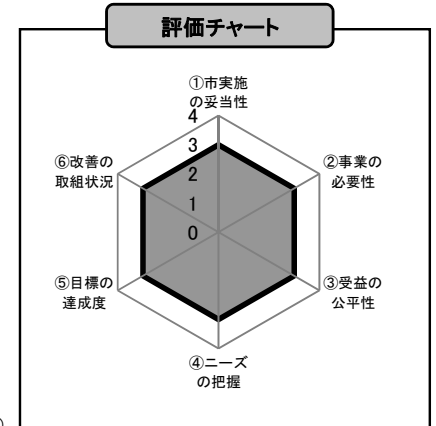
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
地区計画道路整備	2,943	0	2,943	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,943	0	2,943	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	3,954	2,943	12,213
財源内訳			
国県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	3,954	2,943	12,213
一般財源の割合	100%	100%	100%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	地区計画決定に基づき、良好な住宅地の形成を進めるため、市が主体となって道路等の基盤整備を推進する必要がある。
②事業の必要性	3	都市基盤が未整備である地区計画決定をした地区の整備を進めることは、定住促進に資する重要な事業であり、推進する必要性は高い。
③受益の公平性	3	地区計画決定に基づき整備促進を図る事業であり、地域住民を対象としていることに加え、定住促進に資する事業として、多数の市民のサービス向上につながる事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査においても、道路の安全性や快適性に対する市民ニーズは高く、市民からの問い合わせや要望等もあり、定住促進に資する事業として重要度の高い事業である。
⑤目標の達成度	3	市道橋爪中線の用地買収を計画的に進めた。
⑥改善の取組状況	3	住宅建築の促進につながる事業効果路線を選定して路線整備を進めているが、今後より積極的に整備促進を図られるよう適正に事業を進めていく手法を整備していく。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC-A)

平成30年度に見直しを実施した事項	地権者等との調整を図りつつ、コストの削減や事業効果が高い路線について、用地購入を実施。
令和元年度に見直しを実施している事項	地権者等との調整を図りつつ、コストの削減や事業効果が高い路線について、引き続き整備促進を図る。
今後見直しを検討する事項	地元や地権者からの要望に基づき、より事業効果が高い路線を順次整備しているが、より積極的に整備促進を図るための整備方針を決めていく必要がある。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地元や地権者からの要望などに基づき、コストを含め投資効果の高い路線の整備を進めているが、地区全体での整備率は高くない。	定住促進の観点からも、より積極的に住宅建築の促進につながる路線整備を計画的に進めていくための手法等を整理し、推進していく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	6	公園事業費	308

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	公園整備
事業目的	公園を整備することにより、地域住民等の憩いの場としてやレクリエーション活動の場として提供し、良好なコミュニティを形成することができる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・旧体育館の撤去箇所において、魅力ある空間整備を実施していく。 ・岩田公園用地（塔野地字岩田地内）A=8,304㎡ 施設管理業務委託 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○体育館跡地整備 <ul style="list-style-type: none"> あいち森と緑づくり事業支援業務 体育館跡地広場整備工事 体育館跡地広場整備付帯工事 ○岩田公園整備 <ul style="list-style-type: none"> 維持管理（除草）
事業の成果・効果	地域住民の防災拠点として、また、多数の市民がうるおいを感じ、憩い場やレクリエーションの場として活用できる公園施設の整備を進めた。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

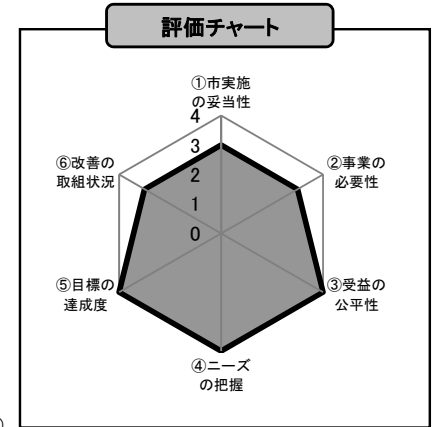
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
岩田公園整備	262	262	0	0%	3	4	4
体育館跡地整備	22,934	13,800	9,134	40%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	23,196	14,062	9,134	39%	3	4	4

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		272,496	23,196	372
財源内訳	国庫支出金	51,700	4,200	0
	地方債	148,900	9,600	0
	その他	515	262	372
	一般財源	71,381	9,134	0
一般財源の割合	26%	39%	0%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	多くの市民の憩いの場に活用する公園施設の整備は市が主体として進める必要がある事業である。
②事業の必要性	3	市民の憩いの場としての公園施設の整備については、市民のニーズも高く、引き続き推進すべき事業である。
③受益の公平性	4	地域住民の憩いの場であるとともに、観光誘客や不特定多数の市民が活用する施設である。
④ニーズの把握	4	不特定多数の市民等が活用する施設であり、地元要望等市民ニーズを把握しながら進めている事業である。
⑤目標の達成度	4	事業計画に則り計画的に整備を進め、体育館の跡地整備を完了した。
⑥改善の取組状況	3	体育館跡地整備については効率的な整備に努めた。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	体育館跡地の整備について、コスト縮減を含め効率的な工事施工に努めた。
令和元年度に見直しを実施している事項	事業計画に沿って、効率的に整備を進める。
今後見直しを検討する事項	事業計画に沿って、効率的に整備を進める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
岩田公園の整備方針について、地元・関係機関等と協議を進め、方向性を定めていく必要がある。	地元・関係機関等の意見を聴取し、岩田公園整備の今後の方針について検討を進めていく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	7	公園管理費	310

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	桜樹木管理
事業目的	歩行者ネットワーク構想「犬山さくらねっと・うおーく」に基づき、桜を活かした快適な空間を保全・創造するため、桜並木の適正な維持管理を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の事業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・道路及び河川敷の桜並木の適正な維持管理 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○沿道（堤防）桜並木管理 <ul style="list-style-type: none"> ・桜並木の支障枝及び枯枝の剪定、危険木の伐採、消毒等実施 ●主な予算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・桜並木剪定業務委託料 ・桜並木薬剤散布業務委託料 ・桜並木処理業務委託料
事業の成果・効果	市内の桜並木約2,800本について、桜樹木診断の結果に基づき、適正な剪定・管理を行い、桜並木を保全することで、観光資源や潤いある歩行者空間に資する景観を保全するとともに、老朽化したり、道路交通上支障となる桜については、剪定等を行い、安全の確保に努めている。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

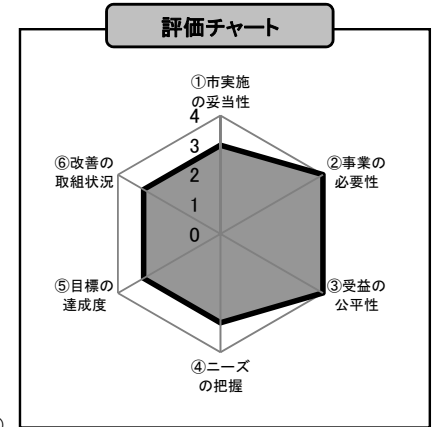
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
沿道（堤防）桜並木管理	16,515	0	16,515	100%	4	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	16,515	0	16,515	100%	4	4	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		12,441	16,515	24,097
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	178	0	0
	一般財源	12,263	16,515	24,097
一般財源の割合	99%	100%	100%	



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市内の桜並木について、景観及び交通上の安全確保の視点から、市が主体として管理を実施していかなければならない。
②事業の必要性	4	観光資源や市民の憩いの場として、桜並木の景観を保全していく必要がある。加えて、老朽化した桜が交通安全上の支障となることから、安全・安心のまちづくりの観点からも継続が必要な事業である。
③受益の公平性	4	市民の健康づくりに資する遊歩道や犬山城周辺、五条川沿いの景観など、不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	桜並木の保全・適正管理に対する市民要望は強く、ウォーキングトレイル事業に対する市民意識調査や土木要望などにより市民ニーズを把握し取り組みを進めている。
⑤目標の達成度	3	桜樹木診断に基づき、倒木や折損の危険がある老朽木を優先して処理しているが、桜の生育・保全の視点を加えた剪定・管理についてより積極的に取り組む必要がある。
⑥改善の取組状況	3	桜樹木診断と連携して剪定管理を進める取り組みを推進し、より効率的に剪定業務が実施した。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	桜樹木診断について、剪定管理業務により効率的に活かせるよう、関係課・受託者と連携・協議をしながら進め、桜樹木の標章や位置図の整理も実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	桜樹木診断業務を整備課所管に変更し、診断結果をより効率的に剪定管理業務に活かせるように改善を行うとともに、中長期的な視点での桜の管理体制・手法の検討について、関係課及び関係機関と連携して、検討を進める。
今後見直しを検討する事項	桜樹木診断結果を基に実施する桜並木の管理委託業務をより、効率的かつ適切にできるような内容の精査を引き続き行っていくとともに、中長期的な桜並木の保全・管理の方向性を検討し、とりまとめていく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
桜並木については、老朽化が進み、管理コストは増大していくことが想定されるが、管理体制・手法について引き続き検討を行い、将来を見据えた、桜保全のあり方を検討していく必要がある。	桜樹木診断に基づき、効率的な管理に努めるとともに、中長期的な視点に立った桜保全のあり方を検討していく。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	8	公共下水道費	312

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	公共下水道事業特別会計繰出金
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され、平成18年に一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・橋中排水区 公共下水道事業により、橋中雨水幹線整備工事を平成28年度から令和元年度で行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> 事業に伴う一般会計からの繰出金 (浸水対策下水道施設の一般財源分、市債償還元金、市債利子)
事業の成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減を行なうために、公共下水道（雨水）整備計画に基づき既設排水路を暗渠化し必要断面を確保するとともに、貯留施設を設置した。

II：個別事業内訳

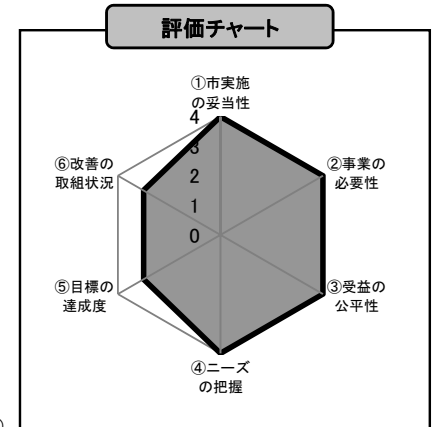
(単位：千円)

(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
公共下水道事業特別会計繰出金	30,433	0	30,433	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	30,433	0	30,433	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		5,590	30,433	56,652
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,590	30,433	56,652
一般財源の割合	100%	100%	100%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	平成15年6月11日に成立した特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策による事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	3	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	予定どおり事業が進んでいる。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	地元調整、扶桑町との調整を密に図り、迂回路の設定及び周知に努め工事を実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	村田機械正門が工事区間であるため、同社と調整を密に行い、早期発注に努め事業効果を高める。
今後見直しを検討する事項	今後事業化を予定している五ヶ村排水路について、事業計画を作成し国庫補助事業として適切に要望していく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。	五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	1	農業用施設災害復旧事業	384

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	災害発生時の対応
事業内容	<p>災害復旧工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・災害により機能障害が生じた農業用施設を対象に、機能回復を図るため、災害復旧工事を実施する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○農業用施設災害復旧 <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事 (大字前原字橋爪山地区内、字富士山地区内、善師野二丁目地区内)
事業の成果・効果	平成29年7月14日、8月18日の豪雨により被災した農業用施設について、健全な営農活動を確保すること及び市民の安全を守るため、復旧工事を実施した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

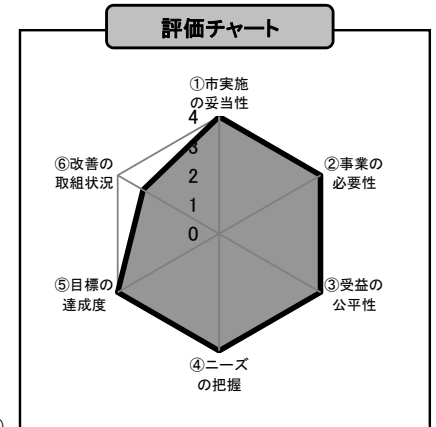
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
農業用施設災害復旧事業	11,943	0	11,943	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	11,943	0	11,943	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
	71,260	11,943	12,000	
財源内訳	国庫支出金	5,874	0	0
	地方債	4,000	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	61,386	11,943	12,000
一般財源の割合	86%	100%	100%	



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	豪雨により被災した農業用施設の復旧工事である。
②事業の必要性	4	健全な営農活動を確保すること及び市民の安全を守るため事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	災害復旧工事であり、被害の拡大を抑え、広く市民の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	通報及び土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	通報等により把握した箇所について施工が完了した。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	災害復旧研修等に職員を参加させ初期対応や災害査定等の知識を習得した。
令和元年度に見直しを実施している事項	災害発生時に早期対応が可能ないように当初予算の確保に努めた。
今後見直しを検討する事項	災害発生時には愛知県と早期に調整を図り適切な対応を務める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生後の迅速なパトロール及び地域からの通報を受け災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れることもある。	災害発生時には地元と調整しながら災害箇所の確認及び対応について適切に進める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	2	林業用施設災害復旧事業	384

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	災害発生時の対応
事業内容	<p>災害復旧工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・災害により機能障害が生じた林道を対象に、機能回復を図るため、災害復旧工事を実施する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○林業用施設災害復旧 <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事（林道高根洞線）
事業の成果・効果	平成29年7月14日、8月18日の豪雨により被災した農業用施設について、健全な営農活動を確保すること及び市民の安全を守るため、復旧工事を実施した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

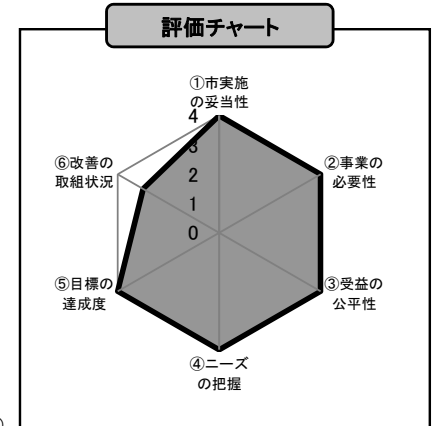
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
林業用施設災害復旧事業	9,481	0	9,481	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,481	0	9,481	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	国庫支出金	17,365	9,481
地方債	1,829	0	-
その他	4,600	0	-
一般財源	0	0	-
一般財源の割合	10,936	9,481	-
	63%	100%	-



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	豪雨により被災した林業用施設の復旧工事である。
②事業の必要性	4	健全な営農活動を確保すること及び市民の安全を守るため事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	災害復旧工事であり、被害の拡大を抑え、広く市民の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	通報及び土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	通報等により把握した箇所について施工が完了した。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	災害復旧研修等に職員を参加させ初期対応や災害査定等の知識を習得した。
令和元年度に見直しを実施している事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
今後見直しを検討する事項	災害発生時には愛知県と早期に調整を図り適切な対応を務める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生後の迅速なパトロール及び地域からの通報を受け災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れることもある。	災害発生時には地元と調整しながら災害箇所の確認及び対応について適切に進める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	2	河川災害復旧費	386

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	災害発生時の対応
事業内容	<p>災害復旧工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・台風等の災害により倒木した桜を対象に、河川等の河積阻害の解消を図るため、災害復旧工事を実施する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○河川災害復旧 <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事 (五条川、新郷瀬川、郷瀬川外)
事業の成果・効果	台風等の強風により倒木した桜の撤去を行い、河川の河積阻害を除去することで二次被害の防止し、市民の安全確保を図った。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

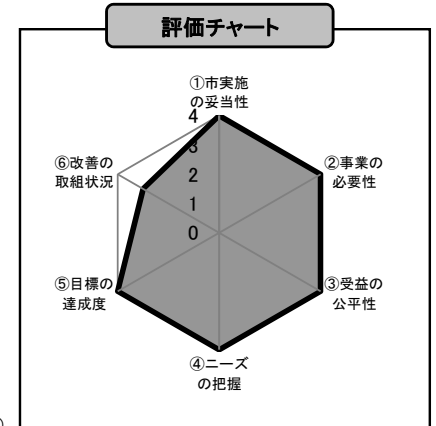
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
河川災害復旧	5,092	0	5,092	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,092	0	5,092	100%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算
	-	5,092	12,000
財源内訳	国庫支出金	-	0
	地方債	-	0
	その他	-	0
	一般財源	-	5,092
一般財源の割合	-	100%	100%



IV：事業の評価 (4段階評価、PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	強風により倒木した桜の除去工事である。
②事業の必要性	4	河川の二次災害防止及び市民の安全を守るため事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	災害復旧工事であり、被害の拡大を抑え、広く市民の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	パトロール、通報及び土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	通報等により把握した箇所について施工が完了した。

V：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

平成30年度に見直しを実施した事項	倒木の恐れがある桜について、診断及び伐採を行った。
令和元年度に見直しを実施している事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
今後見直しを検討する事項	災害発生時には河川管理者と早期に調整を図り適切な対応を務める。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性 (平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生後の迅速なパトロール及び地域からの通報を受け災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れることもある。	災害発生時には地元と調整しながら災害箇所の確認及び対応について適切に進める。

平成30年度決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書(P)
公共下水道事業特別会計	446

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	浸水対策下水道施設整備
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され平成18年一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●浸対策下水道施設整備 <ul style="list-style-type: none"> ○橋中雨水幹線整備事業 ・橋中雨水幹線整備工事（平成28年度～令和元年度） <ul style="list-style-type: none"> H30年度 <ul style="list-style-type: none"> 雨水幹線築造 ボックスカルバート工 L=223m 推進工 L=29m ・内水ハザードマップ作成業務委託 ○公債費 <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道償還元金・利子
事業の成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減を行なうために、公共下水道（雨水）整備計画に基づき既設排水路を暗渠化し必要断面を確保するとともに、貯留施設を設置した。

II：個別事業内訳

(単位：千円)

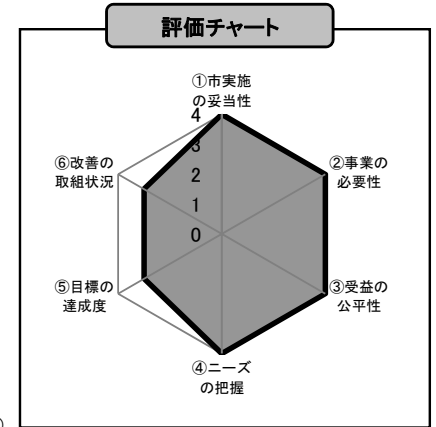
(総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	他市比較
浸水対策下水道施設整備	268,305	268,305	0	0%	3	3	3
市債償還元金	5,642	5,642	0	0%	3	3	3
市債利子	27	27	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	273,974	273,974	0	0%	3	3	3

III：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費	H29決算	H30決算	R1予算	
		279,759	273,974	-
財源内訳	国庫支出金	128,631	113,310	-
	地方債	131,700	95,900	-
	その他	19,428	64,764	-
	一般財源	0	0	-
一般財源の割合	0%	0%	-	



IV：事業の評価（4段階評価、PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	平成15年6月11日に成立した特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策による事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	3	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	予定どおり事業が進んでいる。

V：業務の総点検（PDCAサイクルのC→A）

平成30年度に見直しを実施した事項	地元調整、扶桑町との調整を密に図り、迂回路の設定及び周知に努め工事を実施した。
令和元年度に見直しを実施している事項	村田機械正門が工事区間であるため、同社と調整を密に行い、早期発注に努め事業効果を高める。
今後見直しを検討する事項	今後事業化を予定している五ヶ村排水路について、事業計画を作成し国庫補助事業として適切に要望していく。

VI：課題とその対応策及び今後の方向性（平成30年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。	五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。